

5.3 我が国統計データの利用可能性

5.1及び5.2のを基に現時点での我が国統計データの利用可能性について検討した。

現時点で利用可能性の高いデータは、物的供給・使用表のうち水勘定（水の物的・供給使用表）に関する統計データである。内閣府「水に関する環境・経済統合勘定の推計作業」報告書（H21, H22, H24）には SEEA-Water ドラフト版に基づき推計した「水に関する環境・経済統合勘定表」が掲載されている。この報告書では、使用するデータや推計方法等について検討がなされている。なお、実際に SEEA-CF の水の物的・供給使用表へ適用する際には SEEA-Water ドラフト版と SEEA-CF との整合性を精査する必要がある。

次に利用可能性の高いデータとしては、物的供給・使用表のうちエネルギー勘定とマテリアルフロー勘定が挙げられる。これらのデータは水勘定のように勘定表としての検討は行われていないため、精査が必要となる。

（1）供給・使用表

①貨幣的供給・使用表

SEEA-CF では 08SNA 準拠で作成することとなっているが、08SNA への完全な移行が終了していない我が国場合、例えば、93SNA を使用しての検討が必要である。

②物的供給・使用表

a. エネルギー勘定

総合エネルギー統計のエネルギーバランス表の利用が期待できる。しかし、SEEA-CF では純発熱量（Net Calorific Value）単位を推薦しているが、総合エネルギー統計の単位は総発熱量（Gross Calorific Value）であるため、単位の換算が必要となる。ちなみに、国際エネルギー機関のエネルギーバランス表の単位は純発熱量（Net Calorific Value）である。総合エネルギー統計ないし国際エネルギー機関どちらのデータを使用する場合も SEEA-CF との精査が必要となる。

b. 水勘定

我が国では SEEA-Water ドラフト版を基に H21, H22, H24 の 3 か年に亘り水勘定の検討と作表作業が行われておりデータの整備は行われている。なお SEEA-CF の内容と調整する必要がある。

c. マテリアルフロー勘定

大気への排出勘定のうち温室効果ガスはデータベースが存在している。水中への排出勘定は推計の基となるデータが存在し、推計手法の検討も行われている。固形廃棄物勘定は放射性廃棄物を除きデータ整備が行われている。

（2）機能勘定

①環境保護支出 (EPEA) 勘定

SNA、産業連関表、日本の社会資本等のデータはあるが、SEEA-CF に基づく EPEA 勘定を作成するためには、これらをさらに分割する必要がある、基礎統計データとの整合性等精査する費用がある。

②環境財・サービス部門 (EGSS) 勘定

EPEA 勘定と同様な状況である。

③その他の環境関連取引勘定

EPEA 勘定と同様な状況である。

(3) 資産勘定

貨幣的資産勘定のデータは機能勘定と同様な状況である。以下では物的資産勘定のデータ状況について述べる。

①鉱物・エネルギー資源勘定

我が国統計データの残存埋蔵量クラス分けと SEEA-CF の確認埋蔵量のクラス分けと異なっている可能性があり精査が必要である。

②土地資源勘定

我が国統計データの土地被覆の分類と SEEA-CF との調整が必要である。

③土壌資源勘定

我が国統計データの存在が確認できていない。

④木材資源勘定

我が国統計データが SEEA-CF に利用できるのかどうか精査が必要である。

⑤水産資源勘定

我が国統計データが SEEA-CF に利用できるのかどうか精査が必要である。

⑥水資源勘定

水勘定と同様な状況である。